

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570106898		
法人名	医療法人 惇慧会		
事業所名	グループホーム・サラ		
所在地	秋田市新屋北浜町21-47		
自己評価作成日	令和5年10月8日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームの特性は何かを考え、入居者の心が少しでも満たされるよう自宅に居た際の家事動作や楽しみを少しでも継続できるように支援している。具体的には炊事、洗濯等の家事動作、日曜大工や草刈補助などの動作など、これまで培ってきた活動や活動の補助を行ってもらっている。  
 ・いち介護職として入居者のために何が出来るのかを日々考え、倫理・道徳、知識や技術の向上、制度の変更など職員のスキルアップに努めている。  
 ・コロナ禍となり閉鎖的になりがちだが、ご家族の面会やオンライン面会にもお応えし、ご家族との対話に力をいれ、安心感に繋げている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年11月2日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関である在宅療養支援診療所が24時間体制で支援してくれることで、安心して生活を送ることができている。入居者がくつろいで過ごすことができるよう居室に使い慣れた物や心寄せている物を持ち込んでもらい、家庭的な空間となるよう工夫している。また、いろいろなタイプのソファを和室やダイニングに設置し、広い天井からの採光がある心地よい空間の中で、日常の他愛ない会話を大切にしながら支援を行っている。自然に囲まれ四季が感じられる環境下で、共同生活の目的として自立した生活を目指し、入居者と家事等を役割分担しながらコミュニケーションを図り、入居者のペースに合わせた楽しく充実した毎日が送れることを目指しているホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日、朝の申し送りにて理念の唱和を行っている。事務所内にも掲示し、職員間で共有している。	理念の「心のかよい合う施設づくり」の実践に当たっては、コミュニケーションが大切と、日常生活における他愛ない日常の会話から信頼関係を築く努力を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、鹿島祭を敷地内の庭先で見学・交流することが出来た。コロナ禍以前は町内の避難訓練や夏祭りへの参加、施設行事の収穫祭への招待により交流を図っていた。	鹿島祭は、まだコロナ禍前のようにはいかないが感染に注意しながら見学し、子供たちより風船や旗をもらう等して楽しんで頂けた。今後、町内会に参加を呼びかけ、AEDの研修会を合同で実施する等して、以前のように日常的に交流ができる機会を増やしていけるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染対策の為、地域運営推進会議を2カ月に1回紙面開催し、入居者の状況等情報を発信。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	紙面開催となっているが、町内会費や民生委員へは訪問や電話連絡にて情報交換している。	今はまだ紙面開催が中心だが、町内会長や民生委員の方への配布の際は、できるだけ対面で渡して情報交換に努めている。今後は運営推進会議を対面で開催できるよう準備を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者について、日常生活の報告。人員配置変更に伴う提出書類の確認等を行った。	申請書類の確認・人員基準等の加算要件・生活保護の方についての相談等、市町村と双方向に連絡を取り、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修の実施により、職員一人一人が身体拘束について理解を深めるよう努めている。	研修を効果的なものにする方法として、実際に起きた虐待の事例等の背景を洗い出し、どう感じたかを提出してもらった上で一人ずつ個別に面談している。また、基本的な部分のセンサーマットやスピーチロック等についても倫理感を重視し身体拘束について理解できるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見・権利擁護の制度を利用されている方がおり、各関係者の方と共に支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者やご家族が不安に感じていることを確認しながら軽減に努め、安心して入居できるよう支援している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会時の他にも電話やメールにて近況方向を行っている。ご家族様自身の近況や雑談を交えたコミュニケーションを図り、意見や要望を伝えやすい環境作りに努めている。	事業所便り「まめだより」のコメント欄には居室担当者より細やかなメッセージを記載している。家族に日常をお知らせしていることが会話のきっかけとなり上手くコミュニケーションが取れ、意見を言いやすい環境となっている。場合によってはLINE電話を利用する等、家族に合わせた方法で対応している。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	フィードバック面接、毎月のミーティングでの意見・要望に加え、業務改善委員会からの検討内容を取り入れ反映させている。	話しやすい環境下で意見を聞き取り、休憩時間の過ごし方や、夜勤者の負担を軽減する等の改善を図っている。職員が提案した消臭マットを導入する等、更に働きやすくなるよう意見を聞き入れ適切に対応している。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策継続の為、積極的な交流は行えていないものの、紙面や電話などにて情報交換や共有し質の向上への取り組みをしている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や家族からの日常会話や動作の情報収集、入居後の生活を踏まえ、本人が困っていることや不安に感じていることを聞き、本人の安心感に繋がられるように配慮している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや契約時等の家族からの情報収集のみにとどまらず、近親者などからも聞き取り等を行い困りごとをとりまとめ、随時家族等の不安軽減が図れるように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話や日々のレクリエーション等の関わりの中で、職員各々が新たな気づきや経験を得てお互いに影響しあえる関係構築に努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以前の生活、面会や外出が自由に戻りつつある。面会できない家族へも近況報告や情報を共有し共に支えあう関係性の構築に努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	コロナ禍以前のように、面会に制限が無くなり、頻回に面会に来所されるかたもいらっしやる。関係性が維持できるように支援している。	ホームページの写真の更新を頻回に行い気軽に見ていただくことで、日々の様子を身近に感じていただけるよう努めている。事業所便りの「まめだより」はA4サイズにまとめられ、写真掲載や居室担当が細やかに様子を伝えている。面会の自粛もなくなり、家族時間の隔たりを感じずに対面での面会を楽しめるよう支援している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日をほとんどホールにて過ごされるため、積極的に話題の提供やいろいろな声かけをし共生できるよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に来られるご家族がおり、個別に対応している。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	個人での新聞購読、携帯電話やオンラインでの通話に対応している。一人一人の意向を確認してやりことが実現できるよう支援を行っている。お菓子、飲料の個人購入に対応し、自宅から馴染みの品を持参してもらいくつろげる環境作りに心がけている	コミュニケーションを大切に、日常の他愛ない会話の中で気づいた事や感じ取った事は、情報共有している。日常の動作の変化にも意味があると考え、動作や習慣から思いや意向を汲み取るよう努めている。また、家族との関わり方にもヒントをもらう等、言葉だけでなく多方面から思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて、生活歴から様々な注意点まできちんと把握し入居後も新たな気付きに対してスタッフ間で共有し対応をおこなっている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	計画作成担当者や居室担当者を中心にサービス担当者会議や都度カンファレンスを開催し最新の状態の把握に努め、職員間の統一したケアを提供できるよう努めている	入居者や家族の思いや意向を職員間で話し合い、意向に出来るだけ添えるよう計画を作成している。利用者の変化に応じて計画書の見直しを行い現状に即した介護計画書を作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	職員間できちんと情報が共有できるよう細かな点まで記録、状態の変化へ素早く対応が出来るように努めている		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が続き地域との交流のない時期が続いたが、可能であると判断ができれば、交流を再開したいと考えている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の在宅療養支援診療所と密な連携を取っており、体調不良時には主治医の指示により、総合病院への搬送に対応している。内服薬の管理については、薬局から助言を頂きながら対応している。	同法人の在宅療養支援診療所が24時間体制で支援してくれている。週に1回看護師の訪問があり、密に連絡を取って連携が図られている。歯科診療等の受診の際は職員が対応している。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、状態変化時の医師の指示を受ける体制が確立している。また、週に一度看護師が来所し各入居者の状態変化を伝えている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関と連携し状態の把握に努めている。MSWや担当支援職員と共に退院後の生活に向けた情報共有や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に前もって備え、早期に本人・家族の意向を把握し主治医とも情報共有できる体制を整えている。	重度化や終末期に向けての話し合いを早い時期から始め、利用者と家族の意向を大切にしている。病状や終末期については主治医から説明していただくことも多く、納得して次の段階に進めるよう支援している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを職員間共有し、内部研修を行い初期対応への訓練を実施している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害想定や地震想定での避難訓練を行っている。また、地域住民に協力をお願いし災害時に駆け付けてもらえるような体制を築いている	BCPIについては、法人全体で取り組んでいる。備蓄もホームでは3日分、法人と協力して1週間分は確保している。災害時にも強いLINE WORK Sを10月より導入して活用し、災害時にも安否確認や施設の様子を写真で視認できるよう検討している。ホームの立地はハザードマップでは水害や津波の心配は無く、耐震構造でもあり、火災については消防や地域の協力を得て実施している。停電に弱い地域であることから、発電機を常設して備えているほか、法人内施設から借りることも想定している。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせたケア、思いの傾聴をし、トイレ誘導や更衣・入浴時などは特に声の大きさに気配りし、プライバシーに配慮している	声掛けの大きさや内容に注意して尊厳を傷つけないよう配慮している。プライベートな空間ではプライバシーを重視して支援している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の爪の確認、起床時の整容のチェックを行っている。衣服は入居者様の思いや好みに大切にしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コミュニケーションを取りながら食べたいものはないか情報収集し、可能な限り希望に沿ったメニューを提供している。季節の食材も取り入れるよう工夫している。	行事食を増やし、普段食べる機会のないガパオライス等の提供や、米の品種を変えてご飯の味比べをしたり、利用者の好みのカップラーメンの提供をしたり等、食の楽しみを味わってもらえるような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士作成の献立に基づき提供。口腔内や嚥下状態をタイムリーに確認し、個別に食事形態を配慮したうえで食事・水分摂取量を確認。必要に応じ、主治医へ報告をしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、就寝前の義歯消毒、マウスポンジや洗口液を必要に応じて使用して清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターン、排泄量を把握し、定時でのトイレ誘導を実施。日中と夜間のオムツの種類を検討しながら個々に合わせた排泄援助を行っている。	できるだけトイレでの排泄ができるように、個々のタイミングを計りながら誘導している。また、排泄ケアの目的として、快適に過ごしていただけるという目標に向けて、排泄用品の研修を実施し、正しい理解を身に付け支援をしている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形状や量を確認し、申し送りを行っている。水分摂取の促しや、下腹部マッサージ、便通の良くなる食材の取入れをしながら必要時は医師の指示のもと下剤による排便のコントロールを実施している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前は体調観察、バイタルチェックを行い、入浴中は職員と入居者様の1対1の空間にて、皮膚状態の確認やコミュニケーションの場として大切なひとときを過ごして頂いている。	安心して安全に入浴していただくことを第一に考え、入浴時の動作についても個別に検討している。ゆっくりと快適に入浴を楽しんでいただけるよう、入浴に関する好みや洗身の順番等も情報共有してコミュニケーションを取りながら支援している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせてながら、体操やレクリエーションへ参加していただき、休憩時間へも配慮。安心して眠られるよう、室温や掛物の確認や調節を行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況や副作用を確認し、誤薬や飲み忘れがないかWチェックしている。薬の追加・変更の申し送りを徹底している。主治医を中心とした在宅療養支援診療所との連携により服薬支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人とコミュニケーションを取る中で、個人の好きなこと楽しみたい情報を知り、個別に楽しんで頂けるよう工夫に努めている。出来ることは積極的に活動の維持に努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナかであった昨年よりは、ドライブなど外出の機会が徐々に増加している。	混雑を避けて閑散期にドライブに出かけたり、家庭ではなかなか食べる機会の少ない食事を提供したりしている。今後は、入居者に自分の欲しいおやつをコンビニで選んでもらうことも計画している。職員の勤務時間を変更する等工夫し、外出する機会を増やせるよう努めている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の影響により、外出しての買い物支援はできていないが、今後状況に応じて少人数や短時間での、近隣への買い物は実施していきたい。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに季節感のある飾り付けを行っている。共有部は一緒に掃除し、清潔感のある空間づくりに努めている。施設周囲の草花を摘んで季節の花を飾る等している。	大きな窓からは、自然の四季を感じることができる。冬場は加湿器や洗濯物で乾燥に対処している。いろいろなタイプのソファを和室やダイニングに設置して思い思いに過ごせるように工夫している。高い天井からは自然の彩光が入って心地よい清潔感のある空間となっている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に館内が往来でき、入居者同士が自由に会話できる雰囲気づくりに努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には馴染みのある家具や使い慣れたものを持参して頂いている。写真の掲示やご本人が作成した作品を展示するなど安心できる雰囲気づくりに努めている。	使い慣れた物や家族写真、思い出の品等の心寄せている物等を持ち込んでもらい、入居前の部屋に似た環境作りに取り組んでいる。居室は整然と整頓されているというより、自分の部屋と認識できるような工夫が施されている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃からコミュニケーションを大切にし個々のADLや能力を理解し共有している。安全面に配慮しながらも「できること」を大切に支援している。		